

会議結果（要旨）

会議名	平成30年度 第2回 余市町地域公共交通検討委員会
開催日時	平成30年10月31日（水）午後1時30分～午後3時10分
開催場所	余市町役場 301号会議室
出席者	委員：出席6名、欠席2名 他：オブザーバー2名
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回からの継続協議事項について 3. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) タクシー利用実態調査結果について 2) 町内公共交通の輸送パターンの検討について 4. その他 5. 閉 会
会議資料	別紙のとおり
会議結果	下記のとおり
出された意見等	<p>■報告事項</p> <p>○前回からの継続協議事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査の集計結果の拡大処理について→調査を行っていない世帯の需要を想定するための拡大処理を行った。 ・ 交通量について→1週間の利用形態を1日当たりに補正 ・ 個人属性について→拡大処理は行わない。 ・ 公共交通利用者の地域間移動状況について→大川から黒川、黒川から1・2・3と町内、黒川2から小樽の移動が多く見られた。 ・ 外出目的について→大川、黒川2は通勤・通学目的が多く、梅川、山田及び美園は買い物目的が多い。 ・ 年齢階層別について→黒川2の小中学生の割合が多い。梅川の高齢階層が半分以上を占める集計となった。 ・ 自動車運転免許証保有の状況について→運転免許を持っていない方は、登、黒川に多く回答。 ・ 自動車使用状況について→自らの自動車を使用している割合が大きいのは豊丘、家族の自動車を使用されている方の割合が大きいのは豊丘と黒川2、車を使用しない方の割合が大きいのが登と黒川2・3。 ・ 利用したい公共交通について→乗合タクシーは豊丘、コミュニティバスは登、美園及び栄、今より利便性が高い路線バスは大川、黒川及び山田地域の割合が大きい。 <p>※意見等特になし</p>

■協議事項

○タクシー利用実態調査結果について

- ・町内のタクシー事業者2社の協力の基タクシー利用実態調査を実施
調査期間は平成30年9月18日(土)～24日(月)。
調査方法は、車両別に、乗車時刻、乗車場所、降車場所、所要時間、利用人数について記録。
- ・1台あたりの時間帯別(1時間)平均運行回数→平日のピーク時2.7台、平均2.3台。土日祝日のピーク時は2.1台、平均1.8台
- ・1台あたりの時間帯別(1時間)平均運行時間→平日は平均48.2%の稼働で1回当たりの所要時間は平均値で6分。土日祝日は平均39.2%の稼働で1回当たりの所要時間は平均で7分。
- ・地域間輸送の状況→駅前など黒川へ発着する交通量が半分以上を占める状況。
公共公益施設のアクセス回数→公共公益施設を抽出し、一番多い施設にJR余市駅の282台、次いでイオン、コープさっぽろ、協会病院という順。

※以下委員からの意見及び回答

- ・タクシーでの移動は中心部の近距離利用が多く見られるが、遠くへの利用が少なくなることは料金が原因か?→中心部に居住人口が多いことによるもの。
- ・アンケート調査から移動手段としてタクシーを選択する状況把握は可能か?→外出目的別の利用交通手段を調査しており可能。
- ・タクシーの助成金はあるか?→ない。タクシー利用者は黒川、大川は多い結果となっているが、発着が黒川から黒川、栄町の旭団地、黒川の共栄団地、浜中のモイレ台団地の利用も多い。病院については、余市協会病院、小島病院、勤医協、林病院、池田内科、中島内科の利用も多いので、新たなバス路線を考える上で、考慮することが必要。

○町内公共交通についての輸送パターンの検討について

- ・これまで議論を重ねてきた、アンケート調査結果・バス乗降調査・タクシー利用実態調査の分析を基に、需要に対応した輸送パターンを検討。
- ・案1は現余市協会病院線を基本に、利用が少ない区間や重複している区間を改善する。現況の運行キロ数を若干延長し、乗降が少ない区間は下り線において代替路線を設定、現況路線と代替路線により8の字運行するイメージ。富沢町重複区間は、代替路線を新しく設置するイメージ。長所は、乗り継ぎ無しにJR余市駅の東西を跨いだ利用が可能。
- ・案2は、JR余市駅、あるいは駅裏の大型店に乗り継ぎ拠点を設けて、東・西ルートそれぞれの運行形態を取るイメージ。重複区間や利用が少ない区間は案1の考え方と同様で、西側のルートを見直し山田町まで拡大した場合をイメージ。長所は路線延長が短くなるため路線の拡大が可能。短所は駅を跨ぐ利用は必ず乗り継ぎが必要となること。またJR余市駅を乗り継ぎ拠点とする場合、長期的な検

討が必要。

○各輸送パターン共通で想定される課題及び検討が必要な事項（委員からの意見及び事務局の想定）

- ・道路の形状により、車両を再検討してることが必要。
- ・分散化している駅前バス停の整理。
- ・高速道路開通による車両の影響。
- ・ターミナル待合拠点の検討と、コミュニティ施設的なものの併設を検討。
- ・乗継ぎについてはコミュニティバス、乗合タクシー、定額タクシーなどにより、乗継ぎ拠点を定めることが合理的。
- ・路線拡大ルートによっては国道進入箇所への信号機整備が必要。
- ・タクシー需要の多いモイレ台団地は道路狭小地域のためバスの運行が難しいエリア。
- ・使う車両や運行の時間帯、通勤、病院、買い物といったニーズをふまえて時間帯やコースの設定が必要。
- ・行き帰りのニーズを加味して車両のパターンを検討。

※札幌運輸支局中山専門官より以下の趣旨の助言あり

（輸送パターンについて）網形成計画は具体的に書き込まなくて良いが、方向性をはっきりさせるために一度掘り下げた議論も必要である。最終的な細かいところは計画とは別の話で、具体化する中で詰めていけば良い。その中で実際面に照らし合わせて少しずつ運行可能なものを探っていくことが必要。そこは計画の段階では見えてこない。

■その他

- ・事務局より次回開催について
輸送パターンの検討については、検討委員会での議論を踏まえ、第5回協議会にて提案する。
- ※意見等特になし

以上により閉会

--	--

